京城日報

陸軍省發表（十月十九日）

北部軍兵務部長に 東海林少將

船團を含む敵艦隊
比島レイテ灣を砲爆
陸海軍協同、邀擊中

大本營發表（昭和十九年十月十九日十七時卅分）一、輸送船團を伴へる敵艦隊は十月十七日比島レイテ灣に侵入、同十八日午後以降同灣沿岸に對し砲爆擊を實施中なり

二、同方面の我部隊は陸海協同これを邀擊中なり

燦たり「台灣沖航空戰」戰果
轟沈破四十五隻
敵機動部隊の過半壞滅

大本營發表（昭和十九年十月十九日十八時）わが部隊は十月十二日以降連日連夜台灣及「ルソン」東方海面の敵機動部隊を猛攻し其の過半の兵力を壞滅して之を潰走せしめたり、本戰鬪に於て我方の收めたる戰果綜合次の如し

一、我方の收めたる戰果綜合次の如し

轟擊沈	航空母艦十一隻 戰艦二隻 巡洋艦三隻 巡洋艦若くは驅逐艦一隻
擊破	航空母艦八隻 戰艦二隻 巡洋艦四隻 巡洋艦若くは驅逐艦一隻 艦種不詳十三隻

其の他 火焰火柱を認めたるもの十二を下らず

擊墜 百十二機（基地に於ける擊墜を含まず）

二、わが方の損害 飛行機未歸還 三百十二機

【註】本戰鬪を台灣沖航空戰と呼稱す

尊き犠牲、我三百十二機

堀切大使らに御陪食仰付

滿洲國皇帝陛下に 御答電御發送

皇后陛下 大宮御所行啓

勇士の偉業に應へよ

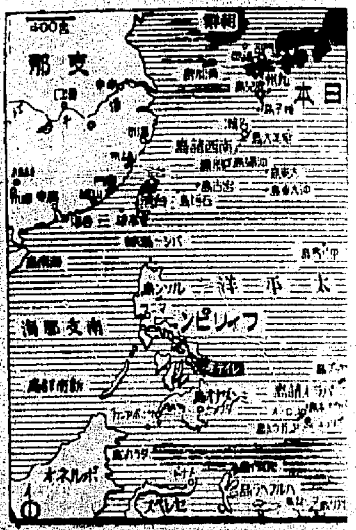
社說
決戰の性格 愈々濃し

將に敵擊滅の神機到れり

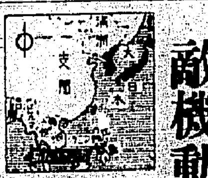
敗戰彌縫の總反攻

比島各地に艦載機

ハルマヘラに 廿數機



カーニコバル島に 敵機動部隊來襲す



ラングーン地區 八十餘機來襲す
空戰に十機を擊墜破

台灣來襲 比島攻防の一頁

比國政府 感謝聲明發表

白衣の勇士を掃射

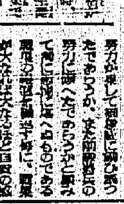
理事長大野氏 土建統制會設立

空襲被害には相互援助
水田大陸連絡會議代表語る

化纎支部長に淸川氏

獨、國民突擊隊を結成

捻りあげた右腕 左腕も折るべし
勝つ手は見えた「增産」
栗原報道部長談



遠藤總監、首相翰長と要談

鐵箭

人事往來

社告

用紙の關係上十月一日より本紙定價を左の通り改訂いたしますから御諒承願ひます

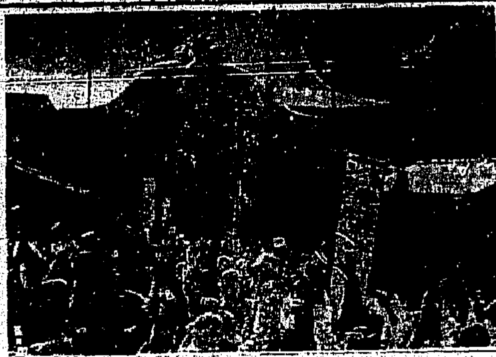
一箇月 金一圓六十錢

京城日報社

朝鮮新聞會

戰果に誓ふ總蹶起

京城神社氏子大祭・赤子の波



あゝ氣高き神鷲の母

微か戰く心に鞭
大戰果は未歸還機のもの

陸海渾然の闘魂
靜かなる基地
決意を胸の勇士達

阿部總督 京城神社參拜

半島の初年兵 神兵の道へ猛進(中)

班内は樂しく愉快
心配もなくただ訓練

前線補給だ増産だ

全鮮に生産總進撃ラッパ

運動實踐方法

動員強調

工場鑛山

女子勤勞運動

白金の回收

ヒマ酒石酸の増産

地底戰士の體

我ら大戰果に應へん
兜の緒を締め勝ち拔かん

總長談

女子も總勤勞

假政府國立一周年

本社長披露 東京で聞く

又も電車の事故
この頃の府民は兢々

乘客にも責任はある

未亡し家族援護ご婦人勤勞

陣歿馬の"馬事祭"
廿四日府民錬成場で

荷造包装は大通組

皮膚泌尿科 永濟醫院

空地は我家の農園に
計算尺の原理と標準使用法

淋巴腺結核(るいれき)
弱い方には「…」が好適です

女性ノ必需品
カピソ 粉白粉
三元理化學研究所

放送

けふ

增資新株式申込ニ付御注意

朝鮮銀行

株式名義書換停止公告

朝鮮米穀倉庫株式會社

タイピスト採用

小林鑛業株式會社

啓發映畫 國土防衛の爲に

供出しよう!

電話機を! 電線を!

今や敵米英は必死の總反攻を企圖しつゝある。…

十月二十日封切

朝鮮軍司令部 朝鮮映畫社

滿洲電信電話株式會社

故頭山先生追悼會
發起人一同

十月二十日